

県立高等学校教育課題研究指定校事業～未来を担う人材の育成を目指して～
「公民科による主権者教育の取組」中間発表会

11月7日（火）に愛知県下の地歴・公民科の先生方を多数お招きして、本校の「公民科による主権者教育の取組」についての中間発表会を行いました。本研究は平成28年度から平成30年度までの3年間行われ、今回はこれまでの研究成果を発表しました。

まず、研究の概要を説明した後、2年8組の「政治・経済」において「住民自治という視点からの主権者教育」と題して、学校がある知立市をよりよい市にするためにはどのような政策が必要かを考える授業を行いました。内容は、本校生徒が居住する知立市・豊明市・刈谷市・安城市の行政サービスについて調べ、自分ならどの市に住みたいかを考えさせ、それをもとに知立市に対する政策提言を作り上げるというものでした。

生徒たちはグループに分かれて一生懸命どのようにすれば知立市が住みたくなるまちななるのかを考えていました。そして、授業の最後に各グループごとに発表を行いました。

生徒が考えた知立市への政策提言としては、「予算の配分を考え、もっと教育費を充実させる」といった意見や「他市にくらべ固定資産税が低いことのアピール」、「企業を誘致するとしても他市に比べて知立市は面積が小さいので、製造業ではなく用地などが小さくてすむIT産業を誘致する」などの意見が出ました。

授業後、本校会議室において、参観していただいた先生方とともに授業についての研究協議を行い、今後生徒が主権者として主体的に地域社会と関わりをもつためにはどのような授業を行うべきか御意見をいただきました。

御参会の先生方から御指摘いただいた点をより一層深め、来年度の研究のまとめを行っていききたいと思います。

また、11月22日（水）に本校で「知立市まち・ひと・しごと創生若手職員プロジェクト」の方々をお招きして、本校生徒と知立市役所職員による「知立の未来を考えるシンポジウム～住みよいまちから住みたいまちへ～」題したシンポジウムを行います。これは総合的な学習の時間の「主権者教育」における「地域課題を考える」の一環で、その中で公民科の授業で身につけた知識や技能の活用を考えています。

今後も、生徒が主権者として地域社会の担い手となるよう公民科の授業改善を進めていききたいと思います。

御参加いただいた先生方誠にありがとうございました。

（研究授業の様子）



(研究協議会の様子)

